

医学アカデミー薬学ゼミナール学長

木暮喜久子

# 第105回薬剤師国家試験に向けて

## 第104回薬剤師国家試験を振り返る



6年制薬剤師を輩出する8回目となる第104回薬剤師国家試験(国試)は、2月23、24日の両日に実施された。表1に示すように受験者総数1万4376人、総合格者数1万0194人、総合合格率70.91%で、103回(70.58%)とほぼ同じ総合合格率であったが、受験者総数が1133人増加している影響により総合格者数は715人増加した。

6年制新卒の合格率は、85.50%(合格者数8129人)で、103回(84.87%)とほぼ同程度、6年制既卒の合格率は43.07%(合格者数1950人)で、102回(50.83%)、103回(47.00%)と徐々に低下している。その他(旧4年制卒、4年制卒を含む)も33.72%(合格者数115人)と103回(32.58%)と同様に低い割合を示した。6年生の学生さんは、新卒での合格を目指し、早めに勉強を始める

ことが大切である。

2018年8月31日「新薬剤師国家試験について」の一部改正について、局長通知の記の4の合格基準が、次のように改められ、104回から適応された。

<b>4 合格基準</b>
以下のすべてを満たすことを合格基準とすること。なお、禁忌肢の選択状況を加味する。
①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。
②必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること。(足きり)

104回は、合格基準に禁忌肢が加味されたこともあり、合格を心配された受験者も多かったが、「禁忌肢選択数2問以下」と発表され、合格者数に大きな影響はなかったと思われる。

表1 第104回薬剤師国家試験の合格率

	合格率	出願者数	受験者数	合格者数
総数	70.91%	15,796名	14,376名	10,194名
6年制新卒	85.50%	10,534名	9,508名	8,129名
6年制既卒	43.07%	4,841名	4,527名	1,950名
旧4年制卒・受験資格認定者	33.72%	421名	341名	115名

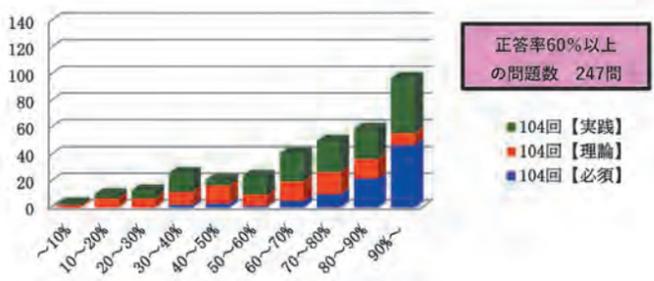
不適切問題：1題(問197は、全員を正解として採点)  
複数解答問題：2題(問113、問190は複数の選択肢を正解として採点)

### 1 104回を振り返って

103回同様に「基礎力」「考える力」「医療現場での実践力」を問う問題は104回国試においても、継続して多く出題されていたが、正答率が90%を超える問題数(図

1参照)が例年より多く、受験生にとって解答しやすい問題が増えたため、全体としては103回国試より平均点が高かった(薬学ゼミナール自己採点データの結果より)。また、実践問題を中心に臨地的見地からの判断を問う内容が多くなっていることから「問題解決能力」や「臨床能力」を持つ6年制薬剤師に対する期待を感じさせる傾向は

図1 第104回正答率別問題数



続いているといえる。20年春に実施される105回国試も継続して、実践力・臨床能力を問われる問題が出題されると思われる

### 2 第104回薬剤師国家試験の総評と105回の合格に向かって

「薬ゼミ自己採点システム※1」による104回国試の平均点は、表2のように102回に比べて合計で17.1点増加、必須・理論・実践問題の全てで103回より増加している。104回は、採点における調整により、不適切問題が1題(問197：全員を正解として採点)、複数解答問題が2題(問113、問190：複数の選択肢を正解として採点)

となり、足きりなど合格基準を満たしていれば、全問題の65%以上(225点以上)の得点で合格となった。

104回国試の領域別正答率(表3)では、例年難易度の高い理論問題の「物理・化学・生物」が、同様に低い正答率であり、また「薬剤」も低い正答率であった。実践問題では、「物理・化学」、「薬剤」の正答率が低かった。

1) 既出問題の出題は全体の20%くらいとされ、単なる正答の暗記による解答が行われないように、問題の趣旨が変わらない範囲で設問および解答肢などを工夫する

表2 出題形式別平均得点率(得点) 102~104回比較

出題形式	104回	103回	102回
必須(90問)	85.9% (77.3点)	78.7% (70.8点)	82.3% (74.0点)
理論(105問)	59.4% (62.4点)	56.3% (59.1点)	55.7% (58.5点)
実践(150問)	70.5% (105.8点)	65.4% (98.1点)	66.2% (96.6点)
合計	71.1% (245.3点)	66.1% (228.2点)	67.2% (229.1点)

※103回、102回は合格発表後の解答により採点した数値  
※102回は採点対象より4問除外のため、全341問で採点  
※103回、104回は全345問で採点

ことになっている。104回国試では「病態・薬物治療」の必須・理論で、既出問題そのままの再出題があった。101回では「物理」と「衛生」で出題されたことがあるが、103回、102回では既出問題そのままの再出題はなかった(薬ゼミリサーチ：再出題0%)。近年の既出問題を解くことは傾向をつかむために重要であるが、正答を丸暗記するのではなく、参考書などで周辺の知識もしっかり勉強してほしい。

2) コア・カリキュラムの改訂(改訂コア・カリ)により、19年からの長期実務

表2 出題形式別平均得点率(得点) 102~104回比較

領域系統	必須問題	理論問題	実践問題	総合
物理	76.1%	48.5%	51.5%	56.2%
化学	80.3%	31.8%	54.6%	49.6%
生物	93.7%	57.3%	70.9%	69.8%
衛生	88.7%	68.0%	66.4%	72.8%
薬理	89.7%	70.6%	72.3%	78.2%
薬剤	85.6%	54.2%	59.8%	67.4%
病態・薬物治療	81.1%	62.7%	64.4%	70.1%
法規・制度・倫理	89.8%	68.6%	73.8%	77.4%
実務	84.8%	-	74.3%	75.4%

※赤字：正答率60%未満

# ほんじつのお薬は、「世間話」でした。

たとえば、昨日食べたごはんの話。最近はじめた趣味の話。  
気軽に世間話ができる薬剤師がいることで、  
ほんのすこしでも元気になる患者さまがいたとしたら、  
それも大切なお薬のひとつなのかもしれません。

地域の日常にとけこむことで、地域の健康づくりをサポートしたい。  
私たちはこれからも、地域に、あなたに望まれる  
「薬局・薬剤師」の形を考えつつながら、  
新たな取り組みを進めていきます。

明日を、つなぐ。



京都市左京区浄土寺下馬場町106  
TEL:075-771-1690  
www.uno-upd.co.jp

